

12月13日

小さな群れよ。恐れることはない。

ルカ福音書12章32節

今日はアドベント第3週です。
ローソクが3本、輝いています。
素晴らしいことをしてくださる神様を
礼拝しましょう。

今日はタイトルはルカ12章から取りましたが
説教はマタイ2章6節からさせていただきます。

マタイ2章6節。

「ユダの地、ベツレヘム。

あなたはユダを治める者たちの中で、

決して一番小さくはない。

わたしの民イスラエルを治める支配者が、

あなたから出るのだから。」

この聖句はミカ5章2節からの引用です。

「ベツレヘム・エフラテよ。あなたは
ユダの氏族の中で最も小さい者だが、
あなたのうちから、わたしのために、
イスラエルの支配者になるものが出る。
その出ることは、昔から、
永遠の昔からの定めである。」

今日は
小さい町、ベツレヘムを顧みてくださる
神様を覚えながら、
小さなものを用いてくださる神様を
礼拝しましょう。

ミカではベツレヘムを
「最も小さい者だが」と書いています。
ベツレヘムはエルサレムの陰に隠れて
目立たない小さな町です。
今はベツレヘムはパレスチナ自治区に
属して、ベツレヘムは回りにを高い塀で
囲まれ、落書きやごみがいっぱいあり
路上で子供たちが遊んでいました。
町に入るには検問があり銃を構えた
兵士が睨んでいる殺伐とした貧しい所です。

小さな町ベツレヘムで起こった出来事を
見ていきましょう。
神様はベツレヘムで何をなされたかを
学んでいきましょう。

ベツレヘムの物語 第一

創世記 35章19～20節

「こうしてラケルは死んだ。

彼女はエフラテ、今日のベツレヘム
への道に葬られた。

ヤコブは彼女の墓の上に石の柱を立てた。そ
れはラケルの墓の石として
今日に至っている。」

ヤコブの最愛の妻、ヨセフとベニヤミンの母、
ラケルはアラムからヘブロンへ帰る旅の途中、ベニヤ
ミンを生み、産後すぐになくなって、
ベツレヘムに埋葬されています。
ベツレヘムはラケルの死んだ
悲しみの町です。

小さいという言葉に、いのちが短い、
幸せが小さいという意味もあるでしょう。

ラケルの命は短かったです。

ラケルが愛する子、ベニヤミンと一緒にいた
時間も短かったです。

そんな悲しみの町、小さな町ではありましたが、
ベツレヘムから、救い主がお生まれになる
約束がミカで語られています。

ベツレヘムの物語 第二

次にベツレヘムが出てくるのはルツ記です。

ルツ記1章1節

「さばきつかさが治めていたころ、
この地にききんがあった。それで、
ユダのベツレヘムの人が妻とふたりの
息子を連れてモアブの野へ行き、
そこに滞在することにした。」

ベツレヘムとはパンの家という意味です。

その名の通り小麦が良く育つ豊かな
穀倉地帯です。そんな名前を持っている
ベツレヘムに、ルツ記の時代、
大きな飢饉がありました。

エリメレク、ナオミの一家はベツレヘムに
いては生きていけない、
餓死するということで、隣国の異邦人の国、
モアブへ食料を求めて逃れて
生き延びようとしてしました。

ベツレヘムは
パンの少ない、収穫の少ない、
お金の少ない、貧しい町、
小さい町です。

生き延びるためにモアブに行ったのに、夫エリメレクはモアブで亡くなりました。夫が亡くなった悲しさに追い打ちをかけたのは、マフロン、キルヨンという二人の息子がモアブの女性と結婚したにも関わらず、まだ子どもが生まれる前にあいつで亡くなって行きました。未亡人ナオミはモアブでの夢を断念して、故郷ベツレヘムに帰ることにしました。亡き息子の嫁、ルツはナオミについていくことを切望したため、ナオミとモアブの女ルツの二人が無一文になって故郷に帰ってきました。

出ていく時は夫、二人の息子と四人で
出て行ったのですが、
帰ってくるときは夫も息子もいない。
ナオミとモアブ人ルツ、二人の未亡人が
帰ってきました。

大きな豊かな家族が貧しく小さくなって帰ってきました。
小さな貧しいナオミ、ルツをベツレヘムはお迎え
しました。

落穂ひろいという小さな収入の仕事しか
なすすべのなかった外国人女ルツ。

ルツは熱心に落穂を拾いました。

貧しいモアブの女ルツのひらうわずかの落穂。しかし
この小さな貧しい人の営みを、
神様は大きな恵みに発展させられました。

ルツの小さな信仰を
お金持ちで豊かな信仰の人ボアズが
見つめていました。愛の豊かなボアズは
ルツを嫁に迎えました。

ルツからオベデ、エッサイ、ダビデが生まれて大きな
国の王様が生まれてきました。

飢饉に襲われる、
食料がなくなる小さな倉庫の貧しい町
ベツレヘム。

そんな小さなものであっても恐れることはない。最
高の王様ダビデがここで生まれました。

ベツレヘムの物語 第三

I サム 16:1 【主】はサムエルに仰せられた。「いつまであなたはサウルのこととで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たして行け。あなたをベツレヘム人エッサイのところへ遣わす。わたしは彼の息子たちの中に、わたしのために、王を見つけたから。」

新しい王様がエッサイの家にいるというお告げがサムエルにあり、エッサイの家に行きました。ダビデは8番目の小さな少年で期待されず、サムエルが来た時にも家に帰れず、野原で羊の番をしていました。小さな少年ダビデが偉大な王に導かれていくドラマがベツレヘムで始まりました。

やがてダビデの子孫として救い主イエス様がベツレ
ヘムで生まれました。小さな町ベツレヘムの、小さ
な馬小屋で、誰にも見られないような貧しい小さな
誕生でした。

生まれたばかりのイエス様を
最初にお祝いに來たのは貧しい
羊飼いたちでした。

彼らは何一つお祝いの品を持ち合わせていない貧しい、小さな人々でしたが、心からのお祝いをささげました。

しかし天では天使たちの大きな大きな
コーラスが、オーケストラが救い主のお生まれをお祝いし、
東方の偉大な博士たちも、黄金、乳香、没薬という大きな貴重な宝物をプレゼントしました。

からしだねのような小さな種からも大きな木が成長していきます。私たちの小さな力、小さな信仰、小さな賜物、小さな希望、小さな出合いを豊かに育んでくださる神様に期待しましょう。小さな幼子イエス様に世界を、歴史を変える大きな力が込められていました。小さなものの中にある神様のご計画をしっかりと見つめ期待しましょう。

ルカ 12:32 小さな群れよ。恐れることはない。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。

小さいことを祝福してくださる神様の証し、しるしがクリスマスです。

少年は5つのパン、2匹の魚をささげました。それで5000人が満腹して余ったパンは12の大きなかごに一杯になりました。少しでも信仰をもってささげる信仰を祝福されます。

やもめはレプタ2つをささげました。貧しいやもめが精いっぱいのおさげものをしました。世界の人がこの小さなやもめの小さなささげものを記念としてささげる信仰と勇気をいただきました。

ペテロ、ヨハネは無学な漁師でした。小さな学問もない人でしたが、それでも一生懸命伝道して、学者を不思議がらせました。

ヨハネは高齢になっても手紙、黙示録を書きました。

クリスマス。小さなもの、わずかなもの、弱々しい
者も豊かにして下さり、用いてくださる記念の日
であります。

小さなイエス様に、博士は大きなささげものを捧
げました。黄金 乳香 没薬 をささげました。

小さな幼子イエス様は時間、空間を超えた永遠の王様です。今もその霊的な力で歴史を世界を治めておられます。イエス様のことは今も世界の人々を生かし、いのちのことで世界の人を霊的に養っておられます。イエス様は今も生ける大祭司として私たちのために祈り、私たちの信仰の灯が消えないように聖霊の油を注ぎ続けてくださっています。

小さな町ベツレヘムの物語です。小さなものを生かしてくださるイエス様を信じ、恐れないで信仰の道を歩みましょう。